2007 年 度 事 業 報 告 書

自　2007年4月　1日

至　2008年3月31日

107-0052　東京都港区赤坂1－2－2

財団法人　日　本　音　楽　財　団

Ⅰ　概　　要

財団法人日本音楽財団は、アマチュア音楽の振興を目的に 1974 年 3 月に設立され、設立 20 年を迎えた 1994 年からは、主に、西洋クラシック音楽を中心とする「音楽国際交流事業」と、国内外の音楽関連の団体が行なう事業に助成する「音楽文化の振興事業」を中心に事業を展開している。

音楽国際交流事業では、アントニオ・ストラディヴァリ等によって製作された世界最高峰の弦楽器を保有し、国籍を問わず一流の演奏家や若手有望演奏家に無償で貸与する「弦楽器名器の貸与事業」を行っている。この事業は、世界的文化遺産といわれる弦楽器名器を保全し、これらを次世代に継承するとともに、それらの活用によって、西洋クラシック音楽に対する日本の国際貢献と音楽を通した国際交流を目指している。

当財団の保有楽器は、巻末別表 4 のとおり、2008 年 3 月末現在 20 挺である。歴史的文化遺産の管理者として大きな責務を負っていることを自覚し、保有楽器の保守・保全に関しては、最善の努力を怠らないよう努めている。

楽器の貸与方針並びに貸与先については、欧・米・アジアの有識者で構成された楽器貸与委員会で慎重に審議されている。

当財団では、貸与事業の広報を目的として、楽器貸与者による演奏会を国内外で開催しており、本年度は国内では東京で 4 回、海外では米国のヴァージニアとカナダのオタワの 2 都市において開催した。（その他、音楽助成金交付事業の一環として名古屋市と大阪市、地方における演奏会開催事業として旭川市と福岡市の計 4 都市において貸与者による演奏会を開催した。）

もう一つの大きな柱である「音楽文化の振興事業」の助成金の交付は、外部有識者で構成する事業運営委員会の審議を経て、音楽諸団体が実施する各事業に幅の広い助成を実施した。音楽の普及と振興を図るためには、それぞれの地域に根ざした音楽団体への支援を広範囲に増やしていくことが重要であると認識している。

また、今年度より新たな柱として「地方における演奏会開催事業」を立ち上げ、地方都市において、財団保有楽器と楽器貸与者による演奏会を開催し、クラシック音楽愛好家に世界的文化遺産である弦楽器名器による演奏に触れる機会を提供するとともに、当財団の楽器貸与事業を通じた国際貢献に対する理解の促進を図った。

上記のような当財団の事業の運営・実施にあたっては、監督官庁の指導を仰ぐとともに、貴重な競艇交付金による日本財団の助成金を受けている。当財団としては、国内外における音楽文化の発展に寄与するため、適切な運営のもと、業務体制の充実と事業の一層の効率的実施に向けて、今後とも努力する所存である。

Ⅱ　総　務

1. 役員の異動

第 69 回評議員会にて第 18 期理事及び監事の選任を行った。第 17 期理事 16 名及び監事 2 名全員が再任された。また、第 81 回理事会にて、小林理事が会長に、塩見理事が理事長に、常務理事には小関理事が再任された。なお、副会長、専務理事は空席として理事長がその職務を行うこととなった。

年度末現在の理事･監事の名簿は巻末別表 1、評議員の名簿は巻末別表 2 のとおりである。

2. 理　事　会

本年度は、理事会を下記のとおり 2 回開催した。

第 81 回理事会

開催日　2007 年 6 月 12 日(火)　13:25～14:40

場　所　アークヒルズクラブ

東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビルイーストウィング 37 階

議決事項

第 1 号議案　2006 年度事業報告について

第 2 号議案　2006 年度収支決算について

第 3 号議案　諸規程の整備について

第 4 号議案　第 18 期会長、副会長、理事長、専務理事、常務理事の互選について

第 82 回理事会

開催日　2008 年 3 月 11 日(火)　13:30～14:40

場　所　アークヒルズクラブ

東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビルイーストウィング 37 階

議決事項

第 1 号議案　2007 年度収支予算の一部変更について

付帯決議：金額の変更及び科目間の金額の若干の流用についてはこれを会長に一任する。また、日本財団への現在追加申請をしている楽器資金の交付が決定した際には、その金額を追加して予算変更し、至近の役員会で報告することとする

第 2 号議案　2008 年度事業計画について

付帯決議：若干の字句の修正等についてはこれを会長に一任する

第 3 号議案　2008 年度収支予算について

付帯決議：金額の変更及び科目間の金額の若干の流用についてはこれを会長に一任する

3. 評 議 員 会

本年度は、評議員会を下記のとおり 2 回開催した。

第 69 回評議員会

開催日　2007 年 6 月 12 日（火）　11:00～12:00

場　所　アークヒルズクラブ

東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビルイーストウィング 37 階

議決事項

第 1 号議案　2006 年度事業報告について

第 2 号議案　2006 年度収支決算について

第 3 号議案　第 18 理事・監事の選任について

第 70 回評議員会

開催日　2008 年 3 月 11 日（火）　11:10～12:05

場　所　アークヒルズクラブ

東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビルイーストウィング 37 階

議決事項

第 1 号議案　2007 年度収支予算の一部変更について

付帯決議：金額の変更及び科目間の金額の若干の流用についてはこれを会長に一任する。また、日本財団への現在追加申請をしている楽器資金の交付が決定した際には、その金額を追加して予算変更し、至近の役員会で報告することとする

第 2 号議案　2008 年度事業計画について

付帯決議：若干の字句の修正等についてはこれを会長に一任する

第 3 号議案　2008 年度収支予算について

付帯決議：金額の変更及び科目間の金額の若干の流用についてはこれを会長に一任する

4. 登 記 事 項

法務局に対し行った登記事項は以下のとおりである。

2007 年 6 月 28 日　2007 年 3 月 31 日現在における資産総額（ 10,628,827,695 円 ）の登記

5. 主務大臣（文部科学大臣）への届出等

文部科学大臣に対し提出した届出事項は以下のとおりである。

2007 年 6 月 26 日　2006 年度事業報告及び収支決算報告書届

2007 年 7 月 6 日　役員（理事・監事）異動届

2007 年 7 月 6 日　登記事項変更登記完了届（資産総額変更登記、理事登記）

2008 年 3 月 28 日　2007 年度収支予算変更届

2008 年 3 月 28 日　　2008 年度事業計画及び収支予算書届

6．主務官庁の検査

文部科学省（文化庁）による当財団の業務及び財務等の検査は行われなかった。

7．主管税務署の検査

麻布税務署による当財団の立入検査は実施されなかった。

8．外部監査の実施

永和監査法人に監査を委託し、本年度は期中監査を 2008 年 2 月及び 3 月、期末監査を 2008 年 5 月に実施した。

9．事　務　局

事務所を東京都港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル 5 階に置き、業務を遂行した。

年度末現在の事務局役職員数は常勤役員 2 名、職員 4 名、計 6 名である。

Ⅲ　事　　業

1.　音楽国際交流事業

弦楽器名器の貸与事業及びその広報を目的とした演奏会を中心に事業を実施した。

(1)　弦楽器名器の購入

本年度は弦楽器1挺の購入を予定し、貸与事業に相応しい弦楽器の市場調査を引き続き実施した。また、年度末に日本財団から楽器購入の追加資金として 7 億円相当ドル(US$ 6,923,153)の助成金を受領した。しかし、楽器貸与事業に相応しい楽器が本年度はなかったため、購入資金は次年度に持越しすることにした。来年度も引き続き弦楽器の市場調査を実施し、楽器貸与事業に相応しいストラディヴァリウスの購入を目指す。

(2)　弦楽器名器の保守管理

当財団は歴史的文化遺産を永く次世代へ引き継ぐため、楽器の修理及び調整内容等については慎重に検討し、名器の取り扱いに馴れている世界屈指の楽器商を指定し、最良の保全方法を処方している。

長期貸与に供している楽器については、各貸与者に定期的（年 4 回）に専門家による楽器の状態チェックを義務付けるとともに、専門家からは当財団に対して報告書（コンディションレポート）を提出してもらっている。なお、年に一度は同じ目で楽器を見る必要があるという観点から、年に一度、ロンドン在住のアンドリュー・ヒル氏（当財団の楽器アドバイザー）のコンディション・チェックを受けるように指示している。

当財団では楽器貸与事業開始当初より、各貸与者に対して戦争地域及び治安が不安定な国への当財団の楽器持参及び船舶等での演奏を禁じている。

貸与中の楽器のメンテナンスや修理費は当財団が負担している。これは文化遺産である楽器の修理をどこで誰がどのような修理をしたかという記録を「管理者」として残しておく責任があるからである。楽器保険についても当財団が支払っており、保険ブローカーと保険代理店を通じて 2 社の保険会社と契約し、よりよい条件と料率で付保できるよう努力している。

楽器貸与事業を開始して 15 年目を迎え、今後保有年数が経つにつれ、微調整には留まらない修理、メンテナンスが必要となる楽器が多くなるものと予想される。

(3)　弦楽器名器の貸与

1)　第 13 回楽器貸与委員会

日　　時　　2007 年 4 月 13 日（金）　11：30～13：30

場　　所　　米国ヴァージニア州

キャッスルトン・ファーム（Castleton Farms）

楽器貸与委員　巻末別表 3 のとおり
財団所有楽器　巻末別表 4 のとおり
審議事項及び報告事項
現在の貸与状況及び貸与更新について
新規貸与申請について

新規貸与申請者のうち 3 名のオーディションが行われ、Yuki Manuela Janke が新たに長期貸与者として承認された。また、オーディションを受けることを条件として 1722 年製 Antonio Stradivarius 1722 Violin “Jupiter”を貸与している Erik Schumann も、オーディションに参加し、2 年間の長期貸与が承認された。また貸与延長申請した演奏者は全員延長が承認されたが、期間が長期になっている数人の貸与者については貸与終了期限が提示された。

2)　楽器の貸与状況

年度末現在、所有楽器 20 挺のうち 18 挺が長期貸与、2 挺が短期貸与として貸し出されている。年度末現在の貸与状況は巻末別表 5 のとおりである。

短期貸与として、特定の演奏会及び CD 録音等の目的のため貸し出しを行なっているが、希望者が多いことから基本的に貸与期間は最長 6 ヶ月としている。

現有楽器の本年度における貸与状況は下記のとおりである。

（貸与者、貸与推薦者等の敬称は省略）

① Antonio Stradivarius “Paganini Quartet”

貸与楽器及び貸与者 東京クァルテットの各メンバー（アメリカ・ニューヨーク在住）

1727 年製	第 1 ヴァイオリン	Martin Beaver
1680 年製	第 2 ヴァイオリン	池田菊衛
1731 年製	ヴィオラ	磯村和英
1736 年製	チェロ	Clive Greensmith

貸与推薦者　　楽器貸与委員会全員

当該楽器を使用しての演奏　　合計 75 回（聴衆約 57,500 名）

1995 年 9 月 27 日より東京クァルテットに貸与しているが、2008 年 8 月 31 日（貸与期間 12 年 11 ヶ月）まで契約を延長とした。当財団主催の北米演奏ツアー（後述）に出演した。また、本年度中に当該楽器を使用した CD をリリースした。

② 1700 年製 Antonio Stradivarius Violin “Dragonetti”

当該楽器は演奏会や録音のための短期貸与用に供している。本年度は下記の演奏家に短期貸与した。

1）演奏委託者　　佐藤俊介（フランス・パリ在住）

演 奏 委 託　　2007 年 4 月 11 日～2007 月 9 月 10 日(短期)

佐藤俊介は過去の長期貸与者（2001 年 10 月 2 日～2006 年 8 月 14 日）であり、今回、当財団主催の演奏会（後述）のため演奏委託した。なお、本年度中に当該楽器を使用して CD「グリーグ：ヴァイオリン・ソナタ集全 3 曲」をリリースした。

当該 CD は、2007 年の文化庁芸術祭賞、レコード部門《大賞》を受賞した。

2) 貸　与　者　　海野義雄（日本・東京在住）　演奏会のため

貸 与 期 間　　2007 年 9 月 14 日～2007 月 10 月 15 日(短期)

貸与推薦者　　堤剛（チェリスト、桐朋学園大学学長、サントリーホール館長）

1981 年以来 26 年ぶりに復活した、海野義雄・堤剛・中村紘子 トリオ・コンサート（9/29 鹿児島みやまコンセール、10/3 名古屋しらかわホール、10/8 大阪ザ・シンフォニーホール、10/13 東京サントリーホール）において演奏。

3) 貸　与　者　　南紫音（福岡在住）　演奏会・CD 録音のため

貸与推薦者　　原田幸一郎（ヴァイオリニスト、桐朋学園大学教授）

竹澤恭子（ヴァイオリニスト）

貸 与 期 間　　2007 年 10 月 17 日～2008 月 3 月 31 日(短期)

当財団主催の地方での演奏会事業（福岡）に出演した。また、本年度中に当該楽器を使用したデビューCD をリリースした。

③ 1702 年製 Antonio Stradivarius Violin “Lord Newlands”

貸　与　者　　安永徹（ドイツ・ベルリン在住、

ベルリンフィルハーモニーのコンサートマスター）

貸与推薦者　　Simon Rattle（指揮者）

当該楽器を使用しての演奏　リサイタル 10 回（聴衆約 5,000 名）

（ベルリンフィルでの演奏は除外している）

2003 年 1 月 7 日より貸与しているが 2008 年 8 月 31 日（5 年 8 ヶ月）まで貸与を延長した。また、本年度中に当該楽器を使用した CD をリリースした。

④ 1708 年製 Antonio Stradivarius Violin “Huggins”

貸　与　者　　Sergey Khachatryan（ドイツ・エッシュボルン在住）

貸 与 期 間　　2005 年 5 月 31 日から 2009 年 5 月

当該楽器を使用しての演奏　　合計 19 回（聴衆約 34,000 名）

当該楽器は 1997 年 5 月開催のベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクールよりヴァイオリン部門優勝者に、その副賞として次期コンクールまでの 4 年間貸与することにしている。2005 年 5 月の当該コンクール優勝者である Sergey Khachatryan に、次回のコンクールの 2009 年 5 月まで貸与することになっている。また、本年度中に当該楽器を使用した CD をリリースした。

⑤ 1709 年製 Antonio Stradivarius Violin “Engleman”

貸　与　者　　Lisa Batiashvili（ドイツ・ミュンヘン在住）

貸与推薦者　　Osmo Vanska（指揮者）

Alfred Brendel（ピアニスト）

当該楽器を使用しての演奏　　合計 40 回（聴衆約 75,500 名）

2001 年 11 月 2 日より貸与しているが、2008 年 8 月 31 日（貸与期間 6 年 10 ヶ月）まで契約を延長した。また、本年度中に当該楽器を使用した CD をリリースした。

⑥ 1710 年製 Antonio Stradivarius Violin “Camposelice”

貸　与　者　　竹澤恭子（アメリカ・ニューヨーク在住）
貸与推薦者　　Charles Dutoit（指揮者）
　　David Zinman（指揮者）
当該楽器を使用しての演奏　　合計 51 回（聴衆約 42,500 名）
　2005 年 3 月 7 日より貸与しているが、2008 年 8 月 31 日（貸与期間 3 年 6 ヶ月）まで契約を延長した。

⑦ 1714 年製 Antonio Stradivarius Violin “Dolphin”
貸　与　者　　諏訪内晶子（フランス・パリ在住）
貸与推薦者　　Charles Dutoit（指揮者）
　　徳永二男（ヴァイオリニスト）
当該楽器を使用しての演奏　　合計 48 回（聴衆約 64,500 名）
　2000 年 8 月 11 日より貸与しているが、2008 年 8 月 31 日（貸与期間 8 年）まで契約を延長した。当財団主催の北米演奏ツアー（後述）に出演した。また、本年度中に当該楽器を使用した CD をリリースした。

⑧ 1715 年製 Antonio Stradivarius Violin “Joachim”
貸　与　者　　庄司紗矢香（フランス・パリ在住）
貸与推薦者　　Zakhar Bron（ヴァイオリニスト、ケルン音楽院教授）
　　海野義雄（ヴァイオリニスト）
当該楽器を使用しての演奏　　合計 52 回（聴衆約 60,500 名）
　2001 年 4 月 14 日より貸与しているが、2008 年 8 月 31 日（貸与期間 7 年 4 ヶ月）まで契約を延長した。東京での当財団主催の演奏会並びに北米演奏ツアー（後述）に出演した。また、本年度中に当該楽器を使用した CD をリリースした。

⑨ 1716 年製 Antonio Stradivarius Violin “Booth”
貸　与　者　　Arabella Steinbacher（ドイツ・ミュンヘン在住）
貸与推薦者　　Ana Chumachenco（ウィーン音楽大学教授）
　　Anne-Sophie Mutter（ヴァイオリニスト）
当該楽器を使用しての演奏　　合計 54 回（聴衆約 66,000 名）
　2005 年 5 月 5 日より貸与しているが、2008 年 8 月 31 日（貸与期間 3 年 4 ヶ月）まで契約を延長した。なお、同氏には貸与委員の提案により 2006 年 9 月 4 日より 1736 年製 Antonio Stradivarius Violin “Muntz ”から当該楽器に楽器を変更して貸与している。当財団主催の北米演奏ツアー（後述）に出演した。

⑩ 1717 年製 Antonio Stradivarius Violin “Sasserno”
貸　与　者　　Viviane Hagner（ドイツ・ベルリン在住）
貸与推薦者　　Claudio Abbado（指揮者）
　　Pinchas Zukerman（ヴァイオリニスト、指揮者）
当該楽器を使用しての演奏　　合計 84 回（聴衆約 101,500 名）
　1999 年 5 月 27 日より貸与しているが、2008 年 8 月 31 日（貸与期間 9 年 3 ヶ月）まで契約を延長した。当財団主催の北米演奏ツアー（後述）に出演した。

⑪ 1722 年製 Antonio Stradivarius Violin “Jupiter”

貸　与　者　　Erik Schumann（ドイツ・ケルン在住）
貸与推薦者　　Zakhar Bron（ケルン音楽院教授）
　　Christoph Eschenbach（指揮者）
当該楽器を使用しての演奏　　合計 24 回（聴衆約 24,000 名）

同氏には 2005 年 11 月 1 日より 1736 年製 Guarneri del Gesu Violin “Muntz ” を貸与していたが、2006 年 12 月 29 日より当該楽器に変更した。第 13 回貸与委員会で長期貸与者として承認され、2008 年 8 月 31 日（2 年 10 ヶ月）まで契約を延長した。当財団主催の北米演奏ツアー（後述）に出演した。また、本年度中に当該楽器を使用した CD をリリースした。

⑫ 1725 年製 Antonio Stradivarius Violin “Wilhelmj”
貸　与　者　　Baiba Skride（ドイツ・ハンブルク在住）
当該楽器を使用しての演奏　　合計 83 回（聴衆約 99,500 名）

同氏は 2001 年ベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクール優勝者であり、2005 年 2 月まで 1708 年製 Antonio Stradivarius Violin “Huggins”を貸与（4 年）していた。引き続きの貸与の申請があり当該楽器を 2005 年 2 月 22 日より短期貸与したが、その後の楽器貸与委員会において長期貸与者として承認され、今回、2008 年 8 月 31 日（貸与期間 3 年 6 ヶ月）まで契約を延長した。また、本年度中に当該楽器を使用した CD をリリースした。

⑬ 1736 年製 Antonio Stradivarius Violin “Muntz ”
1）貸　与　者　　川久保賜紀（ドイツ・ベルリン在住）　演奏会のため
貸与推薦者　　川崎雅夫（ヴァイオリニスト、ジュリアード音楽院教授）
　　Zakhar Bron（ヴァイオリニスト、ケルン音楽院教授）
貸 与 期 間　　2007 年 4 月 1 日～2007 月 10 月 10 日（短期）

東京での当財団主催の演奏会並びに北米演奏ツアー（後述）に出演した。

2）貸　与　者　　Yuki Manuela Janke（ドイツ・ベルリン在住）
貸与推薦者　　外山雄三（指揮者、作曲家）
　　Julia Fischer（ヴァイオリニスト、
　　フランクフルト音楽大学教授）

本年度の楽器貸与委員会（第 13 回）でのオーディション審議により、長期の貸与が承認され、2007 年 11 月 3 日から 2008 年 8 月 31 日までの契約を締結した。東京での財団主催演奏会に（後述）に出演した。

⑭ 1696 年製 Antonio Stradivarius Cello “Lord Aylesford”
貸　与　者　　石坂団十郎（ドイツ・ベルリン在住）
貸与推薦者　　Daniel Barenboim（ピアニスト、指揮者）
　　Krzysztof Penderecki（作曲家、指揮者）
当該楽器を使用しての演奏　　合計 85 回（聴衆約 41,500 名）

2004 年 1 月 29 日より貸与しているが、2008 年 8 月 31 日（貸与期間 4 年 7 ヶ月）まで契約を延長した。東京での当財団主催の演奏会並びに北米演奏ツアー（後述）に出演した。

⑮ 1730 年製 Antonio Stradivarius Cello “Feuermann”

貸　与　者　　Steven Isserlis（イギリス・ロンドン在住）

貸与推薦者　　Jasper Parrott（音楽家）

当該楽器を使用しての演奏回数　　合計 83 回（聴衆約 66,000 名）

1998 年 1 月 16 日より貸与しているが、2008 年 8 月 31 日（貸与期間 10 年 7 ヶ月）まで契約を延長した。

⑯ 1736 年製 Guarnerius del Gesu Violin “Muntz ”

当該楽器は演奏会や録音のための短期貸与用に供している。本年度は下記の演奏家に短期貸与した。

演奏委託者　　渡辺玲子（東京、アメリカ・ニューヨーク在住）

委 託 期 間　　2007 年 4 月 1 日～2008 年 3 月 31 日（短期延長）

渡辺玲子は過去の長期貸与者（1996 年 8 月 28 日～2001 年 10 月 31 日）であり、今回、地方での演奏会事業（旭川）及び音楽助成金交付事業（いずみホール/パートナーの育成）の出演者として演奏委託をした。

⑰ 1740 年製 Guarnerius del Gesu Violin “Ysaye”

演奏委託者　　Pinchas Zukerman（アメリカ・ニューヨーク在住）

2003 年 5 月 27 日より演奏委託しているが、引き続き 2008 年 8 月 31 日（貸与期間 5 年 3 ヶ月）まで演奏委託することになった。

(4)　国内演奏会の開催

楽器貸与者の来日に合わせ、日本国内における当財団の楽器貸与事業の広報を目的とした演奏会を開催し、ストラディヴァリウス等の楽器の音色を来場者に楽しんでもらっている。

また、演奏会の実録 CD を作成し、関係者へ配布するとともに、クラシック音楽専門チャンネルで放送し、事業の周知に努めている。

① 「川久保賜紀ヴァイオリン・リサイタル」

日　　時　　2007 年 6 月 18 日（月）
　　18：00　レセプション　　19：00～20：20　コンサート

場　　所　　第一生命ホール（東京）

演 奏 者　　川久保賜紀 Stradivarius 1736 Violin “Muntz”使用
　　江口玲（ピアノ）

来 場 者 数　　約 590 名

演 奏 曲 目　　サラサーテ：バスク奇想曲　作品 24
　　モーツァルト：ヴァイオリンソナタ　変ロ長調　K.378
　　ショスタコーヴィッチ/ツィガーノフ編曲：4 つの前奏曲
　　ショーソン：詩曲　作品 25

② 「庄司紗矢香＆佐藤俊介デュオ・リサイタル」
　　(東京オペラシティ・コンサートホール開館 10 周年記念)

日　　時　　2007 年 9 月 10 日（月）

18：30　レセプション　　19：30～20：40　コンサート
場　　所　東京オペラシティコンサートホール
演 奏 者　庄司紗矢香　Stradivarius 1715 Violin “Joachim”使用
佐藤俊介　Stradivarius 1700 Violin “Dragonetti”使用
林絵里(ピアノ)
来場者数　約 1,100 名
演奏曲目　ベートーヴェン：ヴァイオリンソナタ　第 3 番変ホ長調　作品 12, No. 3
(庄司、林)
フランク：ヴァイオリンソナタ　イ長調　(佐藤、林)
モシュコフスキ：2 つのヴァイオリンとピアノのための組曲　作品 71
(庄司、佐藤、林)

③ 「石坂団十郎チェロ・リサイタル」
日　　時　2007 年 12 月 26 日（水）
18：00　レセプション　　19：00～20：10　コンサート
場　　所　トッパンホール（東京）
演 奏 者　石坂団十郎　Stradivarius 1696 Cello “Lord Aylesford”使用
岡田将(ピアノ)
来場者数　約 400 名
演奏曲目　チャイコフスキー：カプリッチョ風小品　ホ短調　作品 62
チャイコフスキー：夜想曲　「6 つの小品」よりニ短調作品 19 第 4 曲
バッハ：無伴奏チェロ組曲　第 2 番　ニ短調　BWV 1008
ラフマニノフ：チェロ・ソナタ　ト短調　作品 19

④ 「Yuki Manuela Janke ヴァイオリン・リサイタル」
日　　時　2008 年 2 月 12 日（火）
18：00　レセプション　　19：00～20：10　コンサート
場　　所　浜離宮朝日ホール（東京）
演 奏 者　Yuki Manuela Janke　Stradivarius 1736 Violin “Muntz”使用
Ayumi Janke（ピアノ）
来場者数　550 名
演奏曲目　サラサーテ：ツィゴイネルワイゼン　作品 20
サン＝サーンス：序奏とロンド・カプリチョーソ　イ短調　作品 28
ベートーヴェン：ヴァイオリンソナタ　第 9 番　イ長調　作品 47

また、昨年に引き続き、「親子でコンサート」として下記 2 公演に 27 組 54 名の親子を招待した。親子で招待することにより共有の話題で家族間の会話を増やすとともに、将来のクラシック音楽ファンの底辺からの普及に努めた。

① 2007 年 6 月 18 日（月）19：00　第一生命ホール（親子 17 組 34 名）

川久保賜紀ヴァイオリンリサイタル（当財団楽器短期貸与者）
② 2007年6月26日（火）19：00 紀尾井ホール（親子10組20名）
ミュージック・マスターズ・コースin かずさ2006東京公演（音楽助成金事業）

(5) 海外演奏会の開催

当財団の広報活動として、財団所有の楽器及びその貸与者による演奏会を北米2都市で開催し、国内外におけるオピニオンリーダーをはじめ有識者並びに一般聴衆に、楽器貸与事業を通じたクラシック音楽界に対する貢献をPRした。

当初、米国のヴァージニアとニューヨークの2都市を計画していたが、ニューヨークの92nd St.Yの開催が先方の一方的な都合により困難となったため、急遽カナダのオタワでの開催を検討し、ピンカス・ズッカーマン氏の力添えもあり実現に至った。

ヴァージニア及びオタワにおいて財団保有楽器11挺とイギリスのロイヤルアカデミーより借用したストラディヴァリウス・ヴィオラ1挺を加えた計12挺のストラディヴァリウスによるチャリティーコンサートを以下のとおり開催した。

なお、ヴァージニアでの演奏会については、実録CD、DVDを製作した。

ツアーの名称　Encounter with Stradivari 2007

①米国、ヴァージニア（USA, Virginia）

主　催　シャトーヴィル財団（The Chateauville Foundation）（ヴァージニア）
協　力　（財）日本音楽財団、日本財団
場　所　Theater House, Castleton Farms
日　時　2007年10月7日（日）
14:00 マゼール氏によるストラディヴァリウスの説明と楽器紹介
各演奏家が楽器の音色を紹介
16:40 演奏会
18:30 夕食会
目　的　シャトーヴィル財団の10周年を記念するとともに、シャトーヴィル財団が行う、若手演奏家を育成する事業を支援するためのチャリティコンサート。
聴　衆　約140名（ワシントンD.C.に所在するThe Webster Groupの持つチャリティーを支援する人々の名簿に基づき、1席最低500ドルのチャリティーで招待した。）
また、前日の10月6日（土）には、近隣の音楽を勉強する子供とその親、約70名を招待し、公開ドレスリハーサルを実施した。

演奏曲目、演奏者、使用楽器（2都市共通）
モーツァルト：ヴァイオリンとヴィオラのためのデュオK.423
諏訪内晶子（Stradivarius 1714 Violin “Dolphin”）
磯村和英（Stradivarius 1731 Viola “Paganini”）

モーツァルト：ヴァイオリンとヴィオラのためのデュオ K. 424
Viviane Hagner（Stradivarius 1717 Violin “Sasserno”）
池田菊衛（Stradivarius 1696 Viola “Archinto”）
サラサーテ：ナヴァラ
庄司紗矢香(Stradivarius 1715 Violin “Joachim”)
Arabella Steinbacher（Stradivarius 1716 Violin “Booth”）
占部由美子（ピアノ）
ウェーベルン：緩徐楽章
東京クァルテット（Stradivarius Paganini “Quartet”)
Martin Beaver（Stradivarius 1727 Violin “Paganini”）
池田菊衛（Stradivarius 1680 Violin “Paganini”）
磯村和英（Stradivarius 1731 Viola “Paganini”）
Clive Greensimth（Stradivarius 1736 Cello “Paganini”）
メンデルスゾーン：弦楽八重奏曲
Martin Beaver（Stradivarius 1727 Violin “Paganini”）
Erik Schumann（Stradivarius 1722 Violin “Jupiter”）
川久保賜紀（Stradivarius 1736 Violin “Muntz”）
Viviane Hagner（Stradivarius 1717 Violin “Sasserno”）
磯村和英（Stradivarius 1731 Viola “Paganini”）
池田菊衛(Stradivarius 1696 Viola “Archinto”)
Clive Greensmith（Stradivarius 1736 Cello “Paganini”）
石坂団十郎（Stradivarius 1696 Cello “Aylesford”）

②カナダ、オタワ（Canada, Ottawa）

主　　催	Canada’s National Arts Centre（オタワ）
協　　力	（財）日本音楽財団、日本財団
場　　所	National Gallery of Canada（400 席）
日　　時	2006 年 10 月 9 日（火）19：30～21：15
目　　的	同センター芸術監督ピンカス・ズッカーマンの主宰する若手演奏家育成事業を支援するためのチャリティーコンサート。
聴　　衆	約 400 名（大使館関係の招待約 70 名、一般販売約 330 名）

演奏曲目、演奏者、使用楽器
ヴァージニアの演奏会と同様

米国・ヴァージニアでの開催は、ニューヨーク・フィルハーモニックの音楽監督であり、当財団の楽器貸与委員会の委員長を務めるロリン・マゼール氏が、若手音楽家の活動支援のために設立したシャトーヴィル財団の設立 10 周年と、その活動拠点であるキャッスルトン・ファーム敷地内のシアターハウスの竣工 10 周年を記念したチャリティーコンサートとして実施した。

今回の演奏会の全収益は、シャトーヴィル財団が若手音楽家のために新設した「キャッスルトン・レジデンシー・プログラム」に寄付された。

演奏会に先立ち、マゼール氏によるストラディヴァリウスに関する講演と楽器のプレゼンテーションが行われた。この講演では、マゼール氏が楽器の説明をした後、各演奏家がそれぞれの使用楽器で音階を弾き、楽器本来のもつ音色を聴衆に披露した。このようなステージは聴衆だけでなく演奏家にとっても初めての経験であり、世界の巨匠マゼール氏による演出であったからこそ、一流の演奏家の理解を得て、実現することができた。このステージの模様は DVD に収録し、財団の貴重な資料として保存するとともに、今後の活用方法を検討していきたいと考えている。講演後の楽器のプレゼンテーションでは、聴衆はステージに上がり、演奏家への質問や、楽器を観察するなど、交流の機会が設けられた。本番を控えた演奏家にとっては大変な負担であったが、聴衆にとってはすばらしいプレゼントとなった。

前日の 10 月 6 日は本番に先立ち、公開ドレスリハーサルを実施した。地元住民（音楽を勉強する子供とその親）約 70 名が招待され、終演後、演奏家と聴衆との交歓会も実施された。子供達にとって良い経験になったことはもちろんのこと、演奏家達にとっても楽しい交流の時間となった。

ヴァージニアの演奏会については、辛口批評で有名なワシントンポスト紙にさえ好意的な記事が掲載され、その成功が証明された。

カナダ・オタワにおいてもヴァージニアと同様のプログラムでコンサートを開催した。一流の演奏家と 12 挺のストラディヴァリウスが一堂に会するコンサートはカナダでも初めてのことであり、地元紙でも取り上げられ話題となった。オタワ公演についても、全収益がカナダ国立芸術センターの音楽監督であるピンカス・ズッカーマン氏が主宰する若手演奏家のための教育プログラムに寄付された。

なお、米国・ヴァージニアでの演奏会には、在アメリカ合衆国日本大使館 加藤良三特命全権大使、カナダ・オタワでの演奏会には、在カナダ日本大使館 西田恒夫特命全権大使にご出席いただき、非常にレベルの高い音楽国際交流が実現したことに対し、感謝の意が表された。

(6) 2008 年度事業「財団 35 周年記念コンサート」(2008 年 9 月開催)出演演奏家及び会場等の調整を行った。

開催月日及び会場

2008 年 9 月 6 日（土）16：00 開演　大阪・いずみホール（820 席）

2008 年 9 月 7 日（日）16：00 開演　名古屋・しらかわホール（700 席）

2008 年 9 月 9 日（火）19：00 開演　東京・サントリーホール（2006 席）

出演予定者　楽器貸与者 14 名他　計 16 名

東京クァルテット（池田菊衛、Martin Beaver、磯村和英、Clive Greensmith）、
Sergey Khachatryan (Violin)、竹澤恭子 (Violin)、庄司紗矢香(Violin)、
Arabella Steinbacher (Violin)、Viviane Hagner (Violin)、

Erik Schumann（Violin）、Baiba Skride (Violin)、Yuki Manuela Janke (Violin)、
石坂団十郎(Cello) 、Steven Isserlis (Cello)
チェンバロ演奏：小林道夫　ピアノ伴奏：江口玲

(7)　その他

ザルツブルク・イースター音楽祭（2008年3月開催）を日本財団が支援するにあたり、当財団はその交渉並びに事務手続き等について積極的に協力した。

また2004年度から衛星デジタルラジオ局「MUSICBIRD　THE　CLASSIC　（7ch）」並びに衛星デジタルテレビ「クラシカジャパン」の協力により、当財団が若手演奏家に弦楽器の名器ストラディヴァリウスを無償で貸与する活動をシリーズで紹介している。過去の開催も含め、当財団主催の国内外の演奏会で作成した実録CD、DVDを演奏家の許諾を得て放送し、日本ではまだ認知度が低い演奏家たちの支援を行った。この放送を通じ、当財団が音楽家を支える活動をしていることを周知すると同時に、ストラディヴァリウスの華麗な響きを楽しんでもらった。特に地方のクラシック・ファンで、普段なかなかストラディヴァリウスの演奏に触れる機会のない方には、大変喜ばれているとの報告をもらっている。

2007年度においての放送内容は下記のとおりである。
①　衛星デジタルラジオ　MUSICBIRD　THE　CLASSIC（7ch）
放送日時：計2回
2007年10月20日(土)12:00～15：00（再放送：2007年10月21日（日）19:00～21:00）
「渡辺玲子ストラド＆デル・ジェス・コンサート」
2007年2月16日　浜離宮朝日ホールでのライヴ録音
「川久保賜紀リサイタル」
2007年6月18日第一生命ホールでのライヴ録音

なお、下記の演奏会については2008年度の放送が決まっている。
放送予定：2008年5月25日以降
「庄司紗矢香＆佐藤俊介デュオ・コンサート」
2007年9月10日　東京オペラシティコンサートホールでのライヴ録音
「石坂団十郎　チェロ・リサイタル」
2007年12月26日トッパンホールでのライヴ録音
「Yuki Manuela Janke　ヴァイオリン・リサイタル」
2008年2月12日浜離宮朝日ホールでのライヴ録音

②　衛星デジタルテレビ　クラシカジャパン
放送日時：計10回
2007年4月5日（木）21:00、6日（金）18:00、9日（月）16:40、10日（火）11:10、

11 日（水）04:00、12 日（木）10:00、13 日（金）24:45、14 日（土）15:05、
15 日（日）13:00、21 日（土）25:05
放送プログラム：2004 年 4 月にザルツブルグで開催した「Easter with Stradivarius」

2．音楽文化の振興事業「音楽助成金の交付」

(1) 事業の実施内容

助成金交付先は事業運営委員会において慎重に選定を行っている。選定にあたっては、本事業の目的である「音楽諸団体の活動を支援して、音楽水準の向上を図るとともに音楽の振興と普及を図る」ために、引き続き 5 本の柱 A）マスタークラス、B）指導者の育成、C）子供を対象としたアウトリーチ、D）リハビリ、E）パートナーの育成を中心に審査することとし、個別の案件の審議、決定を行なった。

本年度の事業運営委員会（委員名簿は巻末別表 3）の開催状況は以下のとおり。

第 1 回　2007 年 5 月 10 日（木）14：00～17：00
第 2 回　2007 年 10 月 1 日（月）（書面）
第 3 回　2008 年 1 月 18 日（金）（書面）

本年度は事業運営委員会で審議した結果、A）マスタークラスが 5 事業、B）指導者の育成が 4 事業、C）子供を対象としたアウトリーチが 6 事業、D）リハビリが 2 事業、E）パートナー（事業共催者）の育成が 2 事業、その他が 3 事業、合計 22 事業、助成総額 25,000,000 円を決定した。（巻末別表 6 参照）

各団体実施事業内容は次のとおりである。　（出演者及び講師等の敬称は省略）

A）マスタークラスに分類される事業

才能ある音楽家を見出し、育成していく事業で、一流の演奏技術を学ぶだけでなく、若い音楽家が先輩たちの音楽家としての心構えや音楽に対する考え方に接する場を提供し、今後の活動に大きな自信を与える事業。

① プロジェクトQ・第 5 章～若いクァルテット、ベートーヴェンに挑戦する

期　日　公開マスタークラス　2007 年 9 月～11 月（5 回）
トライアル・コンサート　2007 年 12 月 22 日～24 日
本公演　2008 年 2 月 2 日
団　体　プロジェクトQ実行委員会
会　場　芸能花伝舎、紀尾井小ホール（東京）
規　模　受講生　6 組（24 名）
講師　原田幸一郎、原田禎夫、フェルメール・クァルテット他、計 11 名
聴衆　マスタークラス 333 名　トライアル 244 名　本公演 274 名
助成額　2,000,000 円

6 組の若手弦楽四重奏団を対象に、1）国際的なプロの弦楽四重奏者を講師に迎えた公開マスタークラス、2）本番前のトライアル・コンサート、3）ベ

ートーヴェン初期弦楽四重奏曲全曲演奏会を行った。若手弦楽四重奏団の育成を図るとともに、すべての過程を一般聴衆に公開し、弦楽四重奏の素晴らしさを演奏者そして聴衆がともに体験し共有していくことを意図している。聴衆の中には、毎年このマスタークラスを楽しみに来場し、スコアを持ち込み、メモを取りながら聴講するする方も多い。

② ミュージック･マスターズ･コース in かずさ 2007

期　日　2007 年 6 月 8 日～6 月 26 日

団　体　ミュージック･マスターズ･コース in かずさ実行委員会

会　場　かずさアカデミアホール（木更津）、王子ホール、紀尾井ホール（東京）

規　模　受講生 27 名　芸術監督 2 名　音楽監督 1 名　講師 10 名

助成額　1,000,000 円

国際的なオーケストラ･プレーヤーの育成を目指し、2001 年に第 1 回を開催し、今年で第 7 回となった。室内楽及びオーケストラのレッスンは、19 日間に亙り合宿形式により早朝から深夜まで集中して行われ、随時行われた公開演奏会（ロビー･コンサート）を通じ、その成果が披露された。

受講生は、オーディションにより世界各地（日本を含め 8 ヶ国）から集まり、大友直人、アラン･ギルバートを始め、世界メジャーオーケストラ首席クラスが講師として指導に当たった。今年度は、地元教育委員会との連携により、近隣の小中学生をロビー･コンサートに招き、クラシック音楽を鑑賞する機会を提供した。

③ 東京クヮルテットによるマスタークラス

期　日　2007 年 8 月 23 日～31 日

団　体　メクレンブルク･フォアポンメルン音楽祭
（Festspiele Mecklenburg-Vorpommern gGmbH）

会　場　ロストック音楽･演劇大学（ドイツ）
（Hochschule fur Musik und Theater Rostock)

規　模　学生クヮルテット 4 組（16 名）
（期間中の全てのマスタークラス参加者：12 カ国より 122 名）

助成額　2,000,000 円

期間中に 9 つのマスタークラスと 19 のコンサートが開催され、学生だけでなく一般にも公開された。東京クヮルテットの卓越した指導は、参加者全てにかけがえのない経験となった。特に好評であったのは、学生クヮルテットのメンバーが「聴衆」として仲間の演奏を聴き、その学生の代わりに東京クヮルテットのメンバーが残りの学生と演奏するという試みであった。自分の属するクヮルテットの演奏を客観的に聴くという経験は、新しい発見を多くもたらした。

④ 第 28 回草津夏期国際音楽アカデミー＆フェスティヴァル

期　日　2007 年 8 月 17 日～30 日

団　体　（財）関信越音楽協会

会　場　草津音楽の森国際コンサートホール、天狗山レストハウス、その他

規　模　マスタークラス　17 クラス（157 名）
合唱クラス　89 名
室内楽クラス　3 グループ
公開レッスン　9 回（延べ 414 名出席）
演奏会　15 公演（入場者：延べ 9,017 名）
助成額　1,000,000 円

アカデミーでは、マスタークラスで世界一流の講師がプロを目指す若手演奏家に個人レッスンを行い、演奏技術はもちろんのこと豊かな音楽性やその人格にいたるまで多くを学ぶ機会を与えた。フェスティヴァルでは、講師を中心に他の演奏家も交えて、14 日間連続で毎日異なるプログラムのコンサートを開催した。音楽祭全体は、毎年テーマを設定しており、今年度は「ベートーヴェンからブラームスへ」をテーマにベートーヴェンの三重奏曲、七重奏曲、二本のフルートのための曲など様々な曲が取り上げられた。

⑤ 第 4 回クールシュヴェール国際音楽アカデミー in かさま

期　日　2008 年 3 月 21 日～30 日
団　体　クールシュヴェール国際音楽アカデミー in かさま 実行委員会
会　場　レッスン会場 ：茨城県教育研修センター
コンサート会場：茨城県教育研修センター、笠間公民館、その他
規　模　受講生 76 名（ヴァイオリン 36 名、ピアノ 40 名）
講師 8 名（ヴァイオリン 3 名、ピアノ 5 名）
公開レッスン聴講者 1,895 人　講師コンサート 3 回 聴衆 867 人
特別コンサート 聴衆 132 人　受講生コンサート 聴衆 229 人
街角コンサート 6 回 聴衆 635 人
助成額　1,500,000 円

フランスのクールシュヴェールで毎夏開催される「クールシュヴェール夏期国際音楽アカデミー」のレッスンカリキュラムを踏襲して、ヴァイオリン、ピアノのマスタークラスを開催し、個人レッスン中心の密度の濃い指導を行った。併せて一部のレッスンを一般に公開するとともに、講師によるコンサート、受講生によるコンサートを低廉な価格により開催し、多くの住民にクラシック音楽に触れる機会を提供した。また、地元の小中学生を対象とした日本人講師によるセミレッスンの開催（無料）、音楽愛好家による様々なジャンルの街角コンサートを期間中連日開催、音楽講演会の開催など、アカデミー、市民、行政が一体となり、地域の音楽振興、音楽による街づくりを実現した。

B）指導者の育成に分類される事業

講習会・研修会の指導者／講師・リーダーを育成することにより、東京以外の地区でも参加者が地域に則した安価で質の高い講習を受けることを可能とする事業。

① 2007JASTA ストリングセミナー

期　日　2007 年 8 月 3 日～8 月 6 日（長野会場）、8 月 27 日（東京会場）
団　体　日本弦楽指導者協会
会　場　蓼科パークホテル、茅野市民館コンサートホール、文京シビックホール
規　模　長野　受講生 58 名　聴講生 15 名　講師 8 名　伴奏者 2 名
　　東京　受講生 2 名　聴講生 73 名　講師 1 名　伴奏者 1 名
助成額　1,000,000 円

弦楽器指導者並びにその生徒を対象に、合奏、個人レッスン等数々のカリキュラムを提供し、指導法の研究及び技術の向上を目指した。長野会場では合宿形式でプライベートレッスン、セミナー、室内楽、合奏など様々な集中練習を行った。東京会場ではオーディションで選ばれた受講生 2 名を対象に、オレグ・クリサ（イーストマン音楽院教授、ニューヨーク州）を講師に迎え、ヴァイオリンの公開レッスンを行った。受講生の演奏レベルは高く、弦楽指導者と思われる聴講者のなかには、楽譜を開いて講師の指導を細かくメモする姿が多く見られた。

② APA2007 河口湖音楽祭
期　日　2007 年 10 月 12 日～15 日
団　体　日本アマチュア演奏家協会（APA）
会　場　山梨県富士河口湖町　サニーデ・ヴィレッジ
規　模　参加者 87 名　ゲストのプロ演奏家 6 名
助成額　1,000,000 円

アマチュア演奏家による日本最大の室内楽音楽祭であり、プロの演奏家による合奏指導、プロ演奏家との合奏、公開コンサートなどの研修により、合奏リーダーの育成を図るとともに、室内楽演奏者を増やしアマチュアの室内楽公演活動の活性化を図った。例年、この事業には多くの演奏グループから指導的立場にある奏者が参加しており、合宿で得た室内楽の演奏のノウハウを地元に持ち帰ることで各地の活動の活性化とレベルアップに寄与するとともに、全国のアマチュア室内楽演奏家のネットワーク作りに貢献している。

③ 吹奏楽指導者指揮法講習会
期　日　2007 年 8 月 20 日～2008 年 2 月 3 日
団　体　日本吹奏楽指導者協会
会　場　宇都宮、仙台、室蘭、名古屋、洲本、熊本の市民会館、高校など
規　模　講師延べ 8 名　受講者計 125 名　モデルバンド約 200 名
助成額　1,000,000 円

吹奏楽指導者を主な対象者として、指揮法の習得や指導法の実技指導を全国各地で行った。特に指揮に関しては、日頃指揮しているバンドではなく講習会のために編成したモデルバンドを指揮するので、手馴れたバンドを指揮するのとは異なる視点で振ることができる。個人レッスンとグループレッスンを兼ねて行うため、他人の指揮表現力を見て学ぶことも多い。また、ゼミナール形式でのディスカッションによる指揮法及び指導法について質疑応答を実

施し、各自が持っていた悩み、疑問を解決した。

④ 高円宮殿下メモリアル 第8回日本マスターズオーケストラキャンプ

期　日　2008年1月12日～14日

団　体　(社)日本アマチュアオーケストラ連盟

会　場　日本大学カザルスホール

規　模　受講生75名　講師3名

助成額　1,000,000円

全国各地のアマチュアオーケストラにおいて、コンサートマスターやパートリーダーなどを務める60名の中高年弦楽器奏者が、生涯現役のオーケストラ奏者として更なる技術向上を目指し、指導講師のもとで2泊3日の技術研修キャンプを実施し、最終日には公開レクチャーコンサートを行った。今年度は、初の試みとして「初心者講座」も実施され、15名が参加し講師の巧みな指導と他の参加者の手助けにより合奏する楽しみ、喜びを実感した。本年度の講師は、徳永二男(ヴァイオリン)、藤森亮一(チェロ)、金田幸男(ヴァイオリン)の3名。講師の熱心で詳細に渡る指導に、参加者も指導された内容を地元に持ち帰るために各々で詳細なメモを取るなど、熱意を持って応えていた。

C)子供を対象としたアウトリーチに分類される事業

演奏会を主体とした事業だが、単に聴くだけでなく体験する音楽、音楽家とのふれあいを求めたアウトリーチ活動、親子の会話のキッカケ作り等のいろいろな工夫を付加して積極的にクラシックの裾野の拡大に努める事業。また各地域のオーケストラ等が行う地域の子供を中心とした住民対象の、地域に根ざした活動に対しても積極的に支援する。

① あすなろコンサート2007

期　日　2007年4月1日～2008年2月5日

団　体　日本音楽家ユニオン内あすなろコンサート実行委員会

会　場　日本全国の僻地小中学校27校

規　模　実施校 27校 (応募校数 204校)

聴衆数 児童794名 教員･保護者739名 参加音楽家 延べ88名

助成額　1,000,000円

プロの音楽家の生演奏に接する機会が特に少ない僻地小規模学校(生徒数 100 人以下)で、東京新宿に本部を置く音楽家ユニオンの各地方本部会員のプロ奏者達が、ボランティアでコンサートを行った。生演奏をはじめ楽器の構造の解説や演奏指導、ワークショップなど、それぞれの学校や風土に合わせて、音楽家がオリジナルのプログラムを作成･実施している。学校教育の場で芸術鑑賞の時間が削減される中、子どもたちにプロの演奏家による生演奏を聴く機会の提供を要望する教育者や保護者は多い。

② クラシック音楽演奏家による公立小学校の音楽授業サポートプログラム･2

期　日　2007 年 6 月 21 日～2008 年 2 月 21 日
団　体　NPO 法人 ﾄﾘﾄﾝ･ｱｰﾂ･ﾈｯﾄﾜｰｸ
会　場　中央区豊海小学校
規　模　豊海小学校 4 年生 33 名
　　年間 5 回（1 学期 1 回、2 学期 2 回、3 学期 2 回）
助成額　1,000,000 円

これまで、学校における「年に一度の特別授業」という形で行ってきたプロ演奏家によるｱｳﾄﾘｰﾁ活動を一歩進め、通年の音楽授業ｶﾘｷｭﾗﾑにプロ演奏家のｱｳﾄﾘｰﾁを組み込んだ授業サポートを試みた。現在、事業者は、この試みがモデルケースとなるよう、報告書を兼ねた実践ﾚﾎﾟｰﾄを作成している。（ボランティアスタッフの一人が本事業を対象に論文を執筆中）

③ グランシップ＆静響　ヤングオーケストラ塾

期　日　2007 年 6 月 24 日～12 月 16 日
団　体　NPO 法人　静岡交響楽協会
会　場　静岡　グランシップ中ホール／ﾘﾊｰｻﾙ室／練習室 5 部屋
規　模　1 回目：ﾚｯｽﾝ 4 回（5/13,20,6/10,17）、本番 6 月 24 日
　　受講生 33 名　講師 延べ 28 名　聴衆 658 名
　　2 回目：ﾚｯｽﾝ 4 回（8/12,19,9/2,16）、 本番 9 月 23 日
　　受講生 30 名　講師 延べ 25 名　聴衆 816 名
　　3 回目：ﾚｯｽﾝ 4 回（10/28,11/23,12/2,9）、 本番 12 月 16 日
　　受講生 33 名　講師 延べ 33 名　聴衆 846 名
助成額　1,000,000 円

静岡交響楽団が 3 回のｺﾝｻｰﾄで使う曲を題材に、楽団員による楽器別ｸﾘﾆｯｸ 4 回、計 12 回を延べ 96 名の子供が受講するという、恵まれたプログラム。グランシップ＆静響クラシックコンサートシリーズにて静岡交響楽団と一緒に演奏した。2009 年 10 月の第 24 回国民文化祭の静岡開催に合わせ、ヤング･オーケストラ結成を目指している。

④ 平成 19 年度めぐろパーシモンホール「アーティスト派遣プログラム」

期　日　2007 年 5 月 24 日～2008 年 3 月 10 日
団　体　（財）目黒区芸術文化振興財団
会　場　1）目黒区立小学校（9 校）　2）目黒区立中学校（2 校）
　　3）目黒区立あいｱｲ館（障害者施設）
規　模　1）目黒区立小学校（9 校 496 人）　2）目黒区立中学校（2 校 54 人）
　　3）目黒区立あいｱｲ館（障害者施設 65 人）
　　派遣アーティスト：延べ 30 人
助成額　1,000,000 円

コンサートホールに来て、生の演奏を聴く機会の少ない子どもたちに、彼らのホームグランドへアーティストを派遣することにより、優れた芸術に触れ、表現や創造の楽しみを知り、豊かな情操を身につけていく機会の提供を目的と

している。事業者、派遣アーティスト、学校による綿密な打合せを行い、プロの生演奏を聴くことはもちろん、アーティストの話し、子どもたちの質問、更に一緒に演奏したり、歌ったりといったプログラムの内容で、「交流」することに重点においている。

⑤ それいけ！オルガン探検隊 2007

期　日　2007 年 9 月 16 日（日）
団　体　それいけ！オルガン探検隊事務局
会　場　サントリーホール（東京）
規　模　公演①10：15～12：00　参加者数 284 人
公演②12：45～14：30　参加者数 293 人
公演③15：15～17：00　参加者数 296 人
出演者：オルガン奏者 1 名、解説者 1 名、アシスタント 3 名
ウォークラリー＆体験コーナー用スタッフ 24 名
助成額　1,000,000 円

第 1 部（ウォークラリー）：ホール内の 5 箇所に設置されたスタンプを集めながら、ステージ後方のパイプオルガン内部の見学や、実際にオルガンに使われているパイプを吹くなど、オルガンに関する知識を得た。

第 2 部（オルガンの話）：模型を用いてオルガンの音の鳴る仕組み、音の高さの違い、パイプの素材の違いによる音色を目と耳で体験した。

第 3 部（ミニコンサート）：パイプオルガンの華麗な響きを味わった。バッハの小フーガ、童謡「故郷」の主題による変奏曲及びヴィドールのトッカータ。

⑥ ミュージシャンと音楽であそぼう！～ニューヨークからの贈り物～

期　日　2007 年 11 月 15 日～17日
団　体　くらしに音楽プロジェクト
会　場　港区南山小学校、港区麻布区民センター、港区台場区民センター（東京）
規　模　生徒へのワークショップ：3,4 年生 55 名×2日　見学者 17 名×2日
生徒・保護者へのミニコンサート：生徒 130 名　保護者 40 名
音楽家へのセミナー：18 名
親子レクチャーコンサート：2 回　229 名
シンポジウム：パネリスト 8 名　参加者 40 名
講師：ニューヨークフィルのティーチングアーティスト・アンサンブル（5 名）
助成額　1,000,000 円

ニューヨークフィルよりティーチングアーティスト・アンサンブル（5 名）を招聘し、1）小学 3、4 年生を対象としたワークショップ（「リズム」をテーマに 2 日間に亙って授業を展開）、2)音楽家を対象としたアウトリーチ活動に関するセミナー研修、3）親子を対象としたレクチャーコンサート、4）音楽家、行政、企業メセナ、学生、団体を対象としたシンポジウム（テーマは、ニューヨーク市でのアーティストと地域の関係）を行い、ニューヨークフィルの 30 年以上の実績に基づく、アウトリーチ活動が実践・紹介された。

D) リハビリに分類される事業

障害を持つ子供やお年寄りが演奏等を行なうことによって、機能回復や障害の軽減を目指す事業。

① バリアフリーコンサート「夢・響き愛」開催

期　日　2007 年 4 月～2008 年 3 月

団　体　特定非営利活動法人 町田楽友協会

会　場　町田市民ホール、さくらんぼホール、響きの森ホール（東京都町田市）

規　模　バリアフリーコンサート出演者 220 名　聴衆約 750 名

ミニコンサート出演者 38 名　聴衆約 70 名　練習参加者延べ 1,500 名

助成額　1,000,000 円

障害者、健常者、プロ・アマ、老若男女の区別なく同じ合奏曲を練習。今回は小中学生の参加により親しみやすい音楽会となった。障害者と健常者の共演により、互いの偏見を取り去り、互いの足りない部分を補い合った。また、音楽を作り上げる中で障害者が自信を持つようになり、動かない手足も動くようになり、良いリハビリになった。それに刺激を受けた健常者の演奏技術も向上するなど、相乗効果が見られた。最終的に開催した合同コンサートを終え、出演した障害者はもちろん、家族の表情にも明るさが見られた。

② みんなの音楽会

期　日　2007 年 7 月 1 日～10 月 6 日

団　体　東京ミュージック・ボランティア協会

会　場　東京：浴風会大ホール　静岡：コンベンションアーツセンター会議ホール

沖縄：沖縄市民会館

規　模　東京：出演者 768 人、　招待客・スタッフ他 353 人　計 1,121 名

静岡：出演者 309 人、　招待客・スタッフ他 614 人　計 923 名

沖縄：出演者 246 人、　招待客・スタッフ他 243 人　計 489 名

助成額　1,000,000 円

全国の老人施設や身障センターを中心に約 440 施設にて療養音楽の実践、指導者の育成を続ける事業で、東京、静岡、沖縄に対して助成した（静岡、沖縄は現地福祉団体と共催）。「みんなの音楽会」は一年間練習した曲を発表し、協力ボランティアと交流する場。参加者はリハビリを目的に日頃の練習に励み、努力した成果を十分に発揮し、参加者同士が協力し、高齢や障害を乗り越えた演奏や、音楽会参加者内外との親睦が深まった。

E) パートナー（事業共催者）の育成

今後、音楽財団主催の演奏会を東京以外の地域で積極的に開催するためのパートナーの育成を図る。今までの国内・海外での演奏会のノウハウを提供することによって、協力関係を築くとともに、地方都市でのクラシック音楽普及を目的とする。

① しらかわホールとの共催事業の実施「ヴァイオリニストの練習室～竹澤恭子とともに」

期　日　2007 年 10 月 30 日
団　体　しらかわホール
会　場　しらかわホール(名古屋)
入場者数 598 名
出演者　竹澤恭子
当財団楽器貸与者 Stradivarius 1710 Violin “Camposelice”使用
加藤洋之（ピアノ）、
助成額　1,500,000 円

音楽財団主催の国内演奏会を東京以外の地域で積極的に開催するためのパートナーの育成を図る。今回は当財団との2回目の共催事業として、相互のノウハウを共有し更なる協力関係を築くことができた。今回のプログラムは、竹澤恭子と音楽を学ぶ生徒･学生との交流、及び竹澤恭子ミニ･コンサートの 2 部で構成され、将来のヴァイオリニスト（音楽家）を目指す子どもたちとの交流を通じて、音楽文化の振興を図る教育プログラムを実施した。竹澤さんがステージや学生時代の経験を語ることで、素顔のアーティストに触れられる貴重な機会となった。チケットは、一般 3,000 円、会員（しらかわメイト）1,000 円、学生（小、中、高）1,000 円で販売され、チケット売り上げの一部は、「子ども地球基金」に寄付された。なお、当日は、当財団のパンフレットを入場者に配布し、財団の広報、特に楽器貸与事業に対する理解の促進を図った。

② いずみホールとの共催事業の実施「渡辺玲子が奏でるグァルネリの響き」

期　日　2008 年 3 月 18 日
団　体　いずみホール
会　場　いずみホール（大阪）
出演者　渡辺玲子　当財団楽器貸与者、del Gesu 1736 Violin “Muntz”使用
江口玲（ピアノ）
入場者数 759 名
助成額　2,000,000 円

日本音楽財団主催の国内演奏会を東京以外の地域でも積極的に開催するためのパートナーの育成を図った。本コンサートには、関西に拠点を構える企業のトップクラスの方々（210 名）を招待し、音楽を共通分母とする来場者間の交流/コンサートカルチャーの基盤づくりを行なった。チケットは、一般 3,000 円、会員（いずみホール･フレンズ）には 1,000 円で販売され、低価格で渡辺玲子の奏でるグァルネリ･デル･ジェスの音色を楽しんでもらった。いずみホールでは 2003 年以来毎年 10 月に「夢コンサート」（障害者の方とその家族やボランティアの方たちを招待）を実施している。今回のチケットの売上げの一部は、2008 年度「夢コンサート」の開催資金として繰り越し、充当されることになっている。

なお、当日は、当財団のパンフレットを入場者に配布するとともに、ホワイエ

にヴァイオリンの製作プロセスを示した財団所有のパネル 20 枚を展示し、日本音楽財団の広報、特に楽器貸与事業に対する理解の促進を図った。

F) その他

① 自由演奏会 in グランシップ

期　日　2007 年 12 月 30 日
団　体　自由演奏会 in グランシップ実行委員会
会　場　静岡県コンベンションアーツセンター　グランシップ大ホール
規　模　出演者　計 193 名、観客　計 100 名弱
助成額　414,000 円

吹奏楽愛好者、さらには楽器演奏愛好者に対して、年齢・性別及び楽器演奏経験の差に関係なく、来場者が全員演奏できるという演奏会。楽譜は吹奏楽譜を提供するため吹奏楽がメインだが、弦楽器や和楽器、リコーダーなどの参加も例年多い。大人になってから楽器演奏を始めた人、仕事・子育てで演奏活動を中断した人など、演奏への強い意欲を持っている参加者同士がコンサート開催の喜びを共有した他、生身のふれあいを通じ友情を深めた。初顔合わせ、練習からコンサート本番まですべて一日のうちにこなす。

② CLA 街角オーケストラ・プロジェクト

期　日　2007 年 7 月 21 日～2008 年 3 月 27 日
団　体　NPO 法人芸術振興市民の会(CLA)
会　場　新宿東口モア 4 番街のオープンカフェ
　　新宿駅役所前、新宿歌舞伎町ハイジア
規　模　参加者：小編成オーケストラ 4～8 人、ソリスト（歌手）
　　聴衆：新宿駅前、区役所前、ハイジアなど、不特定多数
助成額　1,000,000 円

新宿都市マスタープランに基づき新宿駅東口のオープンカフェに 2007 年 2 月常設された舞台等を利用し、通行人に室内楽の演奏を聴かせるプロジェクト。クラシック音楽の中からその場の雰囲気にあったプログラムを、音大出身者を中心に小編成で演奏することで、100 名ほどの聴衆と演奏者の一体感が生まれた。新宿歌舞伎町という、クラシックとはかけ離れた印象の場所で敢えて演奏することで、道行く人だけでなく近隣の店舗やビルからも好評を得た。クラシック音楽の潜在的なファンを開拓する、全国に先駆けたモデルケースとなった。

③ 第 8 回北とぴあ合唱フェスティバル

期　日　2007 年 6 月 8 日～10 日
団　体　日本合唱指揮者協会
会　場　北とぴあ　さくらホール、つつじホール、飛鳥ホール（東京都北区王子）
規　模　受講者延べ 850 名　出演者延べ 950 名　聴衆延べ 1,750 名
助成額　500,000 円

コラボレーションをテーマとした様々な合唱のセッションや最新合唱曲の紹

介、グレゴリオ聖歌の講習など、多様性に富んだプログラムを展開。コンクール課題曲の講習会では、作曲家自身と指揮者がその日出会ったモデル合唱団と課題曲を形作っていくという試みもなされた。テーマの異なる演奏会や、若い人から熟年層まで対象を大きく広げた多様な講習会をひとつの会場で提供、今年度で 8 回目を迎え、合唱愛好家の間にすっかり定着した。

(2) 事業の成果

A) マスタークラスの支援は、海外からの申請も増加傾向であり、クラシック音楽界の未来を担う若手演奏家の育成が、世界全域で重要視されていることが読み取れる。参加した学生は、国内外のプロの演奏家から一流の演奏技術だけでなく、音楽家としての心構えや楽曲の解釈を学ぶという貴重な体験をしたことで、演奏活動の総合的なレベルアップを果たせた。なかでも、海外では楽器貸与者である東京クァルテットのマスタークラスへの支援により、当財団の基幹事業である楽器貸与事業に対するマスタークラス関係者の理解の促進が図れた。国内に関しては、プロジェクトQでは受講者･聴衆共に反響が強く、継続的に支援することで、当財団の活動内容の普及に貢献している。

B) 指導者の育成分野の講習会や研修会は、演奏活動の全体的な質を向上させる手助けとなっている。東京だけでなく日本各地での開催も盛んで、参加者が気軽に質の高い講習を受けることが可能となった。内容も単なる演奏技術だけでなく、より深い音楽への考察を取り入れた講習などが加わり充実してきている。アマチュア演奏指導者の育成は、高齢化社会を迎える今後、ますます需要が高まる事業であるといえる。今年は定年後に楽器を始める人々に配慮した「初心者講座」も開催された。

C) 子供を対象としたアウトリーチに関連する事業支援要請が増加傾向にあるのは、近年子供に対する芸術文化教育の充実が叫ばれていながら、学校では予算的に積極的に行いづらいという背景があるからである。子供に単なる生演奏を体験させるにとどまらず、クラシック音楽に対する興味の掘り起こしが積極的に行われた。くらしに音楽プロジェクトでは、ニューヨークフィルの 20 年のアウトリーチ活動のノウハウを伝えるべく、同フィルのティーチング･アーティストが来日した。小学生へのワークショップや親子のレクチャーコンサートなど、充実した内容に反してどの企画も観客が少なく、事前宣伝の方法等の課題が残った。今後、地域に根ざした活動という観点から更に注目していきたい。

D) リハビリに関しては未だ医学的な立証はないが、現在注目を集めている分野で、今後の更なる発展が期待されている。バリアフリーコンサートでは、障害者と健常者との交流を通して互いに相乗効果を得、また、手足に障害のある参加者が演奏会で手足を動かせるようになるなどのリハビリ効果も見られた。高齢者や障害者の機能回復、障害の軽減を目指す先駆けとなっている事業を支援する意義は大きい。

E) パートナーの育成では、名古屋、大阪でのパートナー育成を図り、互いの持つノウハウを共有した演奏会を実施できた。今年は初めて大阪で開催したことで、関西での当財団の活動内容が普及できた。今後も、積極的に東京以外の都市で演奏会

を行い、当財団の知名度を全国的に高めたいと考えている。

3. 地方における演奏会の開催事業

地方都市において、財団保有楽器と楽器貸与者による演奏会を開催し、クラシック音楽愛好家に世界的文化遺産である弦楽器名器による演奏に触れる機会を提供するとともに、当財団の事業、特に、楽器貸与事業を通じた国際貢献に対する理解の促進を図った。

① 渡辺玲子 ヴァイオリン リサイタル
～旭川ウィーン音楽交流 10 周年記念スペシャル～

日　　時	2007 年 9 月 23 日（日） 18：00～
会　　場	旭川大雪クリスタルホール
主　　催	旭川・ウィーン国際弦楽セミナー実行委員会
特別協力	日本音楽財団
協　　力	日本財団
料金形態	入場無料。希望者は事前申し込み
出　　演	渡辺玲子　del Gesu 1736 Violin “Muntz”使用 江口玲（ピアノ伴奏）
プログラム	ベートーヴェン：ヴァイオリンソナタ第 6 番　イ長調　Op.30, No.1 ベートーヴェン：ヴァイオリンソナタ第 9 番　イ長調　「クロイツェル」 J.S.バッハ：無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第 2 番ニ短調 サラサーテ：チゴイネルワイゼン

ウィーン国立音楽大学名誉学長、フリッシェンシュラガー教授と旭川のヴァイオリンセミナーが音楽交流を始めて 10 周年。その記念公演として開催された。渡辺玲子が 1986 年パガニーニ・コンクールで最高位を獲得した際、同教授が審査員をしていた縁もあり、渡辺さんに出演を依頼した。演奏会は全席無料で、事前に往復はがきで申し込みの形式をとった。総席数597席に対して、数日で800名を超える応募があり（旭川市に留まらず札幌市等からの応募も多数あった）、当日は病欠などあったが、591席が埋まり満席でのコンサートとなった。

当日は、当財団のパンフレットを入場者に配布するとともに、ホワイエにヴァイオリンの製作プロセスを示した財団所有のパネル 20 枚を展示し、財団の広報に努めた。このコンサートを通じて当財団の楽器貸与事業に対する理解がより深まったと思料される。

② 竹澤恭子＆南紫音チャリティーコンサート　～「子どもの村福岡」建設支援～

日　時	2008 年 3 月 25 日(火)　18：00～レセプション　19：00～演奏会
場　所	福岡シンフォニーホール「アクロス福岡」
主　催	子どもの村福岡建設支援実行委員会

（ＴＶＱ九州放送、福岡・オーストリア・ウィーン倶楽部、
ＮＰＯ法人子どもの村福岡を設立する会）

共　催	(財)アクロス福岡
協　賛	九州電力(株)、福岡商工会議所(株)、 コカ・コーラウエストホールディングス（株）、九州旅客鉄道（株）、 （株）九電工、その他
後　援	福岡県、福岡県教育委員会、福岡市、福岡市教育委員会、その他
協　力	日本財団
特別協力	日本音楽財団
チャリティー先	「NPO 法人　子どもの村福岡を設立する会」
出　演	竹澤恭子（Stradivarius 1710 Violin “Camposelice”使用） 南紫音（Stradivarius 1700 Violin “Dragonetti”使用） 江口玲(ピアノ伴奏)
プログラム	グリーグ：ヴァイオリン・ソナタ 1 番 (南紫音、江口玲) サラサーテ：ツィゴイネルワイゼン (南紫音、江口玲) イザイ：冬の歌 (竹澤恭子、江口玲) ブラームス：ヴァイオリン・ソナタ 3 番 (竹澤恭子、江口玲) モシュコフスキー：二つのヴァイオリンとピアノのための組曲 (竹澤恭子、南紫音、江口玲)

このコンサートは、世界的な NGO「SOS キンダードルフ」の理念に基づき、福岡に「子どもの村」建設を目指す「NPO 法人子どもの村福岡を設立する会」の趣旨に賛同し、これを支援するためのチャリティーコンサートとして開催した。

ＮＧＯ「ＳＯＳキンダードルフ（子どもの村）」は、1949 年、第 2 次世界大戦後のオーストリアにはじまり、戦争や災害、親の病気、虐待や育児放棄など家庭に恵まれない子どもを引き取り、家庭に近い環境で養育しようとするもので、その活動は、現在、世界 131 カ国に広がっている。

演奏会は全席自由で一律 3,000 円。主催者の一員であるＴＶＱ九州放送がコンサートの告知を放映した効果もあり、総席数約 1,867 のうち約 1,500 席が埋まった（招待席約 150 席を含む）。当日は、コンサートに先立ち、福岡・オーストリア・ウィーン倶楽部の会員を中心とした福岡地区の有力者、約 130 名を招待したレセプションを開催し、音楽を共通分母とする交流・歓談の場を提供した。

レセプション参加者には、財団から財団パンフレット、35 周年記念ベスト CD アルバム、南紫音デビューCD（財団所有の Stradivarius 1700 Violin Dragonett 使用）を配布、コンサート入場者には、財団パンフレットを配布、更にホワイエにヴァイオリンの製作プロセスを示した財団所有のパネル 20 枚を展示し、当財団の広報に努めた。このコンサートを通じて当財団の楽器貸与事業に対する理解がより深まったと思料される。なお、演奏会の入場料売上げは、全て「NPO 法人子どもの村福岡を設立する会」に寄付された。

4. 協 力 事 業

関連団体の主催する事業に、下記のとおり協力を行った。主な内容は以下のとおりである。

第 50 回東京国際ギターコンクール

協力依頼元　　㈳日本ギター連盟

期　　日　　本選　2007 年 11 月 23 日㈮

協力内容　　日本音楽財団賞としてトロフィーを 3 基贈呈

（トロフィー寄贈については 50 回を区切りとして終了した。）

別表 1

財団法人 日本音楽財団理事･監事名簿

(2008 年 3 月 31 日現在、敬称略)

会　長	小林　實	(財)地域活性化センター顧問
理事長	塩見和子	常勤
常務理事	小関悦男	常勤

(以下理事はアルファベット順)

理　事	海老澤　敏	新国立劇場オペラ研修所所長
理　事	長谷川和年	(社)日･豪･ニュージーランド協会会長
理　事	畠山向子	(財)畠山記念美術館館長
理　事	日野原重明	聖路加国際病院名誉院長
理　事	岩淵龍太郎	ヴァイオリニスト
理　事	児玉幸治	(財)日本情報処理開発協会会長
理　事	熊谷直彦	三井物産(株)相談役
理　事	松木康夫	新赤坂クリニック名誉院長
理　事	新田　勇	(株)東芝社友
理　事	佐治俊彦	毎日新聞社社友
理　事	植村伴次郎	(株)東北新社会長
理　事	山之内秀一郎	東日本旅客鉄道(株)顧問
理　事	頼近美津子	コンサートプランナー
監　事	垣見　隆	弁護士
監　事	宮地真澄	(社)全国モーターボート競走会連合会理事長

別表　2

財団法人 日本音楽財団評議員名簿

（2008 年 3 月 31 日現在、敬称略）

（アルファベット順）

安　倍　　寧	音楽評論家
リシャール・コラス	シャネル（株）社長
藤　田　　潔	（株）ビデオプロモーション会長
堀　池　秀　人	建築家
木　全　ミ　ツ	女子教育奨励会理事長
清　原　武　彦	産経新聞社会長
小　林　道　夫	ピアニスト、チェンバロ奏者
前　　和　男	東京音楽大学顧問
奈　良　久　彌	（株）三菱総合研究所特別顧問
須　磨　久　善	（財）心臓血管研究所付属病院スーパーバイザー 心臓外科医
丹　治　　誠	イーバンク銀行（株）会長
矢　野　文　一	（財）自治総合センター常務理事

別表 3

事業委員名簿

(2008 年 3 月 31 日現在、敬称略)

楽器貸与委員 (欧州･米国･アジアの代表で構成)

委員長	Lorin Maazel	指揮者
	Marta Casals-Istomin	マンハッタン音楽院前学長
	Ana Chumachenco	ミュンヘン音楽大学教授、ヴァイオリニスト
	Kyung-Wha Chung	ヴァイオリニスト
	海 老 澤　敏	日本音楽財団理事
	Jean-Pierre de Launoit	エリザベート王妃国際音楽コンクール理事長
	Curtis Price	英国ロイヤル･アカデミー･オブ･ミュージック学長
	Janos Starker	インディアナ大学音楽学部教授、チェリスト
	塩 見　和 子	日本音楽財団理事長

事業運営委員

委員長	鹿 海 信 也	元文化庁文化部長 (社) 日本芸能実演家団体協議会参与

(以下委員はアルファベット順)

委　員	藤 掛 廣 幸	作曲家
委　員	岩 井 宏 之	音楽評論家
委　員	川 本 統 脩	洗足学園大学講師
委　員	齋 藤 一 郎	東京芸術大学名誉教授
委　員	関 根 五 郎	(財) NHK 交響楽団団友
委　員	塩 見 和 子	本財団理事長

別表　4

財団保有楽器の概要

（2008 年 3 月 31 日現在）

Antonio Stradivarius “Paganini Quartet”

ストラディヴァリのクァルテットは地球上に 6 セットしか存在しないと言われているが、このクァルテットはそのうちの 1 つである。19 世紀におけるイタリアの卓越したヴァイオリンの巨匠ニコロ・パガニーニ（1782-1840）が、クァルテット演奏に相応しい 4 挺を収集し演奏していたことからこの名前が付けられた。パガニーニは、特にヴィオラの音質に感銘を受けたためフランスの作曲家エクトル・ベルリオーズ（1803-1869）にヴィオラのための交響曲を委託し、その結果『イタリアのハロルド』が作曲された。当財団は 4 挺を常にセットとして使用し続けてもらうために、現在「東京クァルテット」に貸与している。

このクワルテットは、1680 年製作のヴァイオリン、1727 年製作のヴァイオリン、1731 年製作のヴィオラ、1736 年製作のチェロにより構成されている。

1994 年 2 月に米国・ワシントン D.C.のコーコラン美術館から当財団が購入したものである。

1700 年製　Antonio Stradivarius Violin “Dragonetti”

このヴァイオリンはネックの部分が製作当時のオリジナルのままという、とても貴重な楽器である。著名なコントラバス奏者ドメニコ・ドラゴネッティ（1763-1846）によって所有されていたことから現在この名前で呼ばれている。ドラゴネッティは、コレクションとして、コントラバス、ヴァイオリン、チェロ、ハープ、ギターなどを収集していた。最近では、世界的なヴァイオリン奏者、フランク・ピーター・ツィンマーマン（1965-　）によって世界各国で演奏されていた。

2002 年 6 月に当財団が購入したものである。

1702 年製　Antonio Stradivarius Violin “Lord Newlands”

イギリスのニューランズ卿（1890-1929）によって生涯大切に所有されていたため現在このように呼ばれている。1964 年から 1982 年にこの楽器を保管していたロンドンのヒル商会が、1973 年にバースの古楽器名器展示会にて、当時のヒル商会を代表する楽器としてこのヴァイオリンを展示した。世界的に著名なヴァイオリン奏者アイザック・スターン（1920-2001）はこの楽器を演奏した際、自身が所有しているデル・ジェスと同じパワーを感じる、と語っていた。

2002 年 6 月に当財団が購入したものである。

1708 年製 Antonio Stradivarius Violin “Huggins”

この楽器を 1880 年頃に所有していたイギリスの著名な天文学者であるウィリアム・ハギンス卿（1824-1910）に因んで「ハギンス」と呼ばれている。この楽器は 1997 年以降ベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクール・ヴァイオリン部門優勝者に貸与され、4 年ごとに次の優勝者に引き継がれている。過去の優勝者はデンマークのニコライ・ズナイダー（1997）、ラトビア出身のバイバ・スクリッド（2001）で、現在は 2005 年の優勝者セルゲイ・ハチャトゥリアンに貸与。なお、2009 年よりコンクールの周期が 3 年ごととなるため、貸与期間も 3 年となる。

1995 年 3 月に当財団が購入したものである。

1709 年製 Antonio Stradivarius Violin “Engleman”

このヴァイオリンは、海軍中佐ヤングが第 2 次世界大戦で戦死して手離されるまでの 150 年間、ヤング家で大切に保管されていたため、音色も楽器の保存状態も稀なほど良好である。当財団が所有する以前は、アメリカのアマチュア・ヴァイオリン奏者で収集家のエフレイム・エングルマンが所有していたため「エングルマン」と呼ばれている。

1996 年 5 月に当財団が購入したものである。

1710 年製 Antonio Stradivarius Violin “Camposelice”

このヴァイオリンは 1880 年代にカンポセリーチェ公爵の手に渡ったことから「カンポセリーチェ」と呼ばれている。その後 1894 年にボストンで美術館を設立したジャック・ガードナー夫人の手に渡り、作曲家でありヴァイオリン奏者であったマーティン・ローフラーによって 1928 年まで演奏・保管されていた。1937 年にはクレモナ楽器名器展示会にキューネ博士のコレクションとして展示されている。財団が購入する前は、30 年間以上ベルギーのアマチュア奏者のもとで大切にされてきた楽器である。楽器の内側の状態はオリジナルのままであり、楽器全体の状態は良好である。

2004 年 9 月に当財団が購入したものである。

1714 年製 Antonio Stradivarius Violin “Dolphin”

この楽器は現在最も知名度の高い名器の 1 つといっても過言ではない。音色並びに保存状態も優れており、1715 年製「アラード」と 1716 年製「メシア」に並ぶストラディヴァリウスの 3 大傑作の 1 つと言われている。この楽器は、過去に巨匠ヤシャ・ハイフェッツ（1901-1987）によって使用されていた。裏板の美しいニスの光沢と色がまるで優美なイルカのようだということから、1800 年代後半の所有者でありロンドンの楽器商のジョージ・ハートが「ドルフィン」という名を付けた。

2000 年 2 月に当財団が購入したものである。

1715 年製 Antonio Stradivarius Violin “Joachim”

この楽器は、有名なハンガリーのヴァイオリン奏者、ヨーゼフ・ヨアヒム (1831-1907) が所有していた 5 挺のストラディヴァリウス 1715 年製ヴァイオリンの 1 つである。この楽器はヨアヒムからヴァイオリン・レッスンを受けていたヨアヒムの兄弟の孫娘アディラ・アラニに遺贈されたため「ヨアヒム＝アラニ」としても知られている。日本音楽財団が購入するまで、アラニ家に代々受け継がれてきた。

2000 年 9 月に当財団が購入したものである。

1716 年製 Antonio Stradivarius Violin “Booth”

1855 年から 1856 年にかけてイギリスのブース夫人が息子のために購入し所有していたため、現在の名前が付けられた。1931 年にはアメリカの名高いヴァイオリン奏者、ミシャ・ミシャコフ（1896-1981）の手に渡った。1961 年には、このヴァイオリンはニューヨークのホッティンガー・コレクションの一部となり、そのコレクションカタログにも写真が掲載されている。

1999 年 1 月に当財団が購入したものである。

1717 年製 Antonio Stradivarius Violin “Sasserno”

1845 年からフランスのサセルノ氏が所有していたことから「サセルノ」と呼ばれている。1894 年にはヴァイオリン奏者のオト・ペイニガーによって所有され、後にイギリスで有名な醸造所を所有していたピカリング・フィップスが購入した。1906 年にはイギリスの産業資本家ジョン・サマーズの手に渡り、それ以後 90 年以上同家で大切に保管されていたため、製作時のままの素材が多く残っており保存状態が非常に優れている。

1999 年 5 月に当財団が購入したものである。

1722 年製 Antonio Stradivarius Violin “Jupiter”

このヴァイオリンは、1800 年頃にイギリスの偉大な収集家で当時の所有者のジェームス・ゴディングが名付けたと言われている。また、大切に使用されてきたため保存状態が素晴らしく、オリジナル・ニスも十分に残っている。日本が世界に誇るヴィオリン奏者、五嶋みどり（1971- ）も演奏したことがある名器である。

1998 年 5 月に当財団が購入したものである。

1725 年製 Antonio Stradivarius Violin “Wilhelmj”

1866 年以降、約 30 年間この楽器を所有していた著名なドイツのヴァイオリン奏者、オウガスト・ウィルヘルミ（1845-1908）に因んで「ウィルヘルミ」という名が付けられた。ウィルヘルミの所有していた数多くのヴァイオリンのうち最も愛用されていた楽器だったが、「演奏者として華のあるうちに引退したい」と言い、アメリカの弟子に手渡された

という。
2001 年 6 月に当財団が購入したものである。

1736 年製 Antonio Stradivarius Violin “Muntz”

内側に貼られたラベルにストラディヴァリ本人の手書きで「92 歳の作品」と書かれている珍しい楽器である。透明な黄褐色のニスが楽器のほぼ全体にきれいに残っており、保存状態も音色も格段に優れている。1874 年以降、イギリスの収集家ムンツ氏が所有していたため、「ムンツ」と呼ばれている。1737 年に死去したストラディヴァリが、亡くなる直前に製作した楽器の 1 つとして知られている名器である。
1997 年 7 月に当財団が購入したものである。

1696 年製 Antonio Stradivarius Cello “Lord Aylesford”

アマチュア奏者として有名であったイギリスのアイレスフォード卿が 1780 年代初期にイタリアの名高いヴァイオリン奏者フェリーチェ・デ・ジャルディーニ（1716-1796）から購入し、その後アイレスフォード家に約 100 年間所有されていたことからこの名前が付けられた。1946 年にはアメリカ在住の世界的に著名なチェロ奏者グレゴール・ピアティゴルスキー（1903-1976）の手に渡り、続いて 1950 年から 1965 年には世界が認めるチェロの巨匠ヤーノシュ・シュタルケル（1924- ）によって演奏会や 35 枚のレコーディングのために使用された。
2003 年 6 月に当財団が購入したものである。

1730 年製 Antonio Stradivarius Cello “Feuermann”

通常のチェロと比べ、楽器本体の部分の細長い形が特徴である。世界的に著名なオーストリアのチェロの巨匠、エマニュエル・フォイアマン（1902-1942）が 1930 年から、演奏活動やレコーディングに使用したことから、「フォイアマン」と呼ばれている。1956 年には、ブラジル出身のチェロ奏者、アルド・パリソットの手に渡った。
1996 年 12 月に当財団が購入したものである。

1736 年製 Guarneri del Gesu Violin “Muntz”

アントニオ・ストラディヴァリと並び称される名工、グァルネリ・デル・ジェス（1698～1744）の手によるヴァイオリン。イギリスの収集家ムンツが一時期所有していたことから、この名前で親しまれている。日本音楽財団ではストラディヴァリとグァルネリによって同じ 1736 年に製作された 2 挺の「ムンツ」を保有しており、その 2 挺を弾き比べるために 2000 年 7 月と 2007 年 2 月の 2 回、演奏会を東京で開催し、音色を披露違いの聴き比べを行った。
1995 年 3 月に当財団が購入したものである。

1740 年製 Guarneri del Gesu Violin “Ysaye”

この楽器はベルギーの国家的ヴァイオリン奏者ウジェーヌ･イザイ（1858-1931）が所有していたことから「イザイ」という名が付いた。イザイの提案でベルギーのエリザベート王妃が 1937 年に実現したのが前述のエリザベート王妃国際音楽コンクールである。この楽器の中には小さなラベルが貼られ、赤いインクで「このデル･ジェスは私の生涯を通じて忠実なパートナーだった」とフランス語で書かれている。イザイ国葬の際には棺の前をクッションに載せられ行進した名器である。その後、1965 年に世界的に著名な巨匠アイザック･スターン（1920-2001）の所有となり生涯愛用した。

1998 年 3 月に当財団が購入したものである。

以上、当財団はストラディヴァリウス･ヴァイオリン 14 挺、ストラディヴァリウス･チェロ 3 挺、ストラディヴァリウス･ヴィオラ 1 挺、グァルネリ･デル･ジェス･ヴァイオリン 2 挺の合計 20 挺の弦楽器を所有している。

別表　5

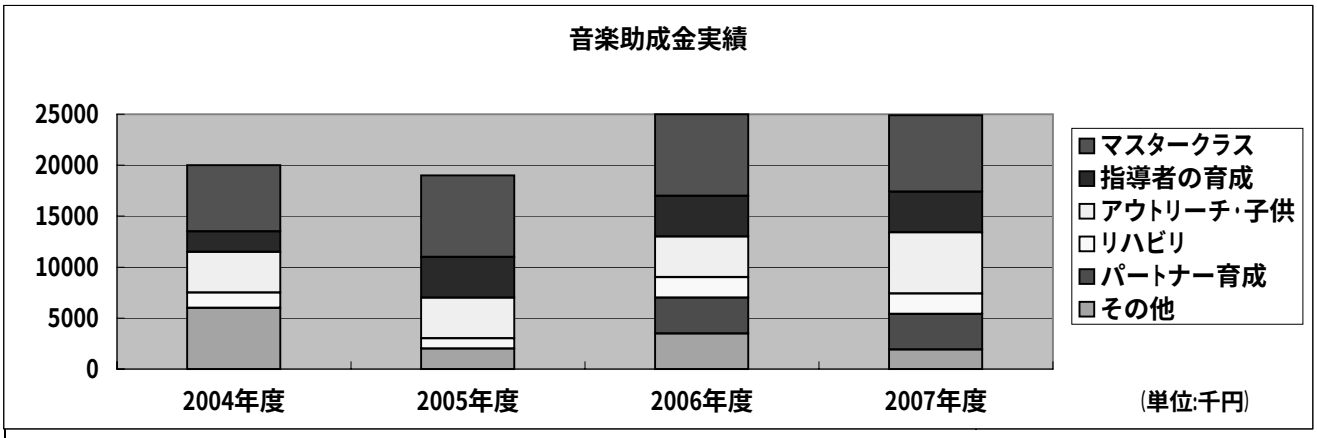
弦楽器と貸与者一覧

(2008年3月31日現在)

楽器名	貸与演奏家	備考
(長期貸与)		
Antonio Stradivari "Paganini Quartet"	Tokyo String Quartet	
①Violin 1680	池田菊衛	ﾆｭｰﾖｰｸ(ｱﾒﾘｶ)在住
②Violin 1727	Martin Beaver	〃
③Viola 1731	磯村和英	〃
④Cello 1736	Clive Greensmith	〃
⑤Antonio Stradivari 1702 Violin "Lord Newlands"	安永徹	ﾍﾞﾙﾘﾝ(ﾄﾞｲﾂ)在住
⑥Antonio Stradivari 1708 Violin "Huggins"	Sergey Khachatryan	ｴｯｼｭﾎﾞﾙﾝ(ﾄﾞｲﾂ)在住 2005年ｴﾘｻﾞﾍﾞｰﾄ王妃国際ｺﾝｸｰﾙ優勝者
⑦Antonio Stradivari 1709 Violin "Engleman"	Lisa Batiashvili	ﾐｭﾝﾍﾝ(ﾄﾞｲﾂ)在住
⑧Antonio Stradivari 1710 Violin "Camposelice"	竹澤恭子	ﾆｭｰﾖｰｸ(ｱﾒﾘｶ)在住
⑨Antonio Stradivari 1714 Violin "Dolphin"	諏訪内晶子	ﾊﾟﾘ(ﾌﾗﾝｽ)在住
⑩ntonio Stradivari 1715 Violin "Joachim"	庄司紗矢香	ﾊﾟﾘ(ﾌﾗﾝｽ)在住
⑪Antonio Stradivari 1716 Violin "Booth"	Arabella Steinbacher	ﾐｭﾝﾍﾝ(ﾄﾞｲﾂ)在住
⑫Antonio Stradivari 1717 Violin "Sasserno"	Viviane Hagner	ﾍﾞﾙﾘﾝ(ﾄﾞｲﾂ)在住
⑬Antonio Stradivari 1722 Violin "Jupiter"	Erik Schumann	ｹﾙﾝ(ﾄﾞｲﾂ)在住
⑭Antonio Stradivari 1725 Violin "Wilhelmj"	Baiba Skride	ﾊﾝﾌﾞﾙｸ(ﾄﾞｲﾂ)在住 2001年ｴﾘｻﾞﾍﾞｰﾄ王妃国際ｺﾝｸｰﾙ優勝者 2001/5/29～2005/2/22"Huggins貸与"
⑮Antonio Stradivari 1736 Violin "Muntz"	Yuki Manuela Janke	ﾍﾞﾙﾘﾝ(ﾄﾞｲﾂ)在住
⑯Antonio Stradivari 1696 Cello "Lord Aylesford"	石坂団十郎	ﾍﾞﾙﾘﾝ(ﾄﾞｲﾂ)在住
⑰Antonio Stradivari 1730 Cello "Feuermann"	Steven Isserlis	ﾛﾝﾄﾞﾝ(ｲｷﾞﾘｽ)在住
⑱Guarneri del Gesu 1740 Violin "Ysaye"	Pinchas Zukerman	ﾆｭｰﾖｰｸ(ｱﾒﾘｶ)在住
(短期貸与)		
①Antonio Stradivari 1700 Violin "Dragonetti"	南　紫音	2007/10/17-2008/3/31
③Guarneri del Gesu 1736 Violin "Muntz"	渡辺玲子	2007/4/1-2008/3/31

長期貸与用18挺、短期貸与用2挺、現在保有楽器　計20挺

別表 6



	2004年度		2005年度		2006年度		2007年度	
マスタークラス	ｳｨｰﾝ音楽大学	1,300	ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄQ実行委員会	2,000	ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄQ実行委員会	2,000	ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄQ実行委員会	2,000
	ﾐｭｰｼﾞｯｸ･ﾏｽﾀｰｽﾞ･ｺｰｽ in かずさ実行委員会	1,000	ﾐｭｰｼﾞｯｸ･ﾏｽﾀｰｽﾞ･ｺｰｽ in かずさ実行委員会	1,000	ダミーチ・ストリング・クワルテット	2,000	ﾐｭｰｼﾞｯｸ･ﾏｽﾀｰｽﾞ･ｺｰｽ in かずさ実行委員会	1,000
	王立デンマークアカデミー	1500	上海音楽院	2000	モスクワ国際舞台芸術センター	1,000	ﾒｯｸﾚﾝﾌﾞﾙｸ･ﾌｫｱﾎﾟﾒﾙﾝ音楽祭	2,000
	Amici della Musica Trapani(ｲﾀﾘｱ)	1700	Musikhochschule Trossingen(ﾄﾞｲﾂ)	2,000	ミュージック・マスターズ・コース・inかずさ2006	2,000	(財) 関信越音楽協会	1,000
	(社) 日本アマチュアオーケストラ連盟	1000	インターナショナル・チェロ・コングレス・イン神戸実行委員会	1,000	石川県吹奏楽連盟(こまつ芸術劇場うらら)	1,000	クールシュヴェール国際音楽アカデミー in かさま	1,500
指導者の育成	日本弦楽指導者協会	1,000	日本弦楽指導者協会	1,000	日本弦楽指導者協会	1,000	日本弦楽指導者協会	1,000
			日本アマチュア演奏家協	1,000	日本アマチュア演奏家協	1,000	日本アマチュア演奏家協	1,000
	(社) 日本吹奏楽指導者協会	1,000	(社) 日本吹奏楽指導者協会	1,000	(社) 日本吹奏楽指導者協会	1,000	(社) 日本吹奏楽指導者協会	1,000
			(社) 日本アマチュアオーケストラ連盟	1000	(社) 日本アマチュアオーケストラ連盟	1,000	(社) 日本アマチュアオーケストラ連盟	1,000
アウトリーチ			日本音楽家ユニオン	1,000	日本音楽家ユニオン	1,000	日本音楽家ユニオン	1,000
	ｻﾝﾄﾘｰﾎｰﾙで音楽しよう実行委員会	2,000	ｻﾝﾄﾘｰﾎｰﾙで音楽しよう実行委員会	1,000	ｻﾝﾄﾘｰﾎｰﾙで音楽しよう実行委員会	1,000	ﾄﾘﾄﾝ･ｱｰﾂ･ﾈｯﾄﾜｰｸ	1,000
	ﾄﾘﾄﾝ･ｱｰﾂ･ﾈｯﾄﾜｰｸ	2,000	ﾄﾘﾄﾝ･ｱｰﾂ･ﾈｯﾄﾜｰｸ	1,000	ﾄﾘﾄﾝ･ｱｰﾂ･ﾈｯﾄﾜｰｸ	1,000	NPO静岡交響楽協会	1,000
			NPO静岡交響楽協会	1000	NPO静岡交響楽協会	1,000	(財)目黒区芸術文化振興財団	1,000
							それいけ！ｵﾙｶﾞﾝ探検隊事務局	1,000
							くらしに音楽プロジェクト	1,000
リハビリ	(財)東京ﾐｭｰｼﾞｯｸ･ﾎﾟﾗﾝﾃｨｱ協会	1,500	(財)東京ﾐｭｰｼﾞｯｸ･ﾎﾟﾗﾝﾃｨｱ協会	1,000	(財)東京ﾐｭｰｼﾞｯｸ･ﾎﾟﾗﾝﾃｨｱ協会	1,000	(財)東京ﾐｭｰｼﾞｯｸ･ﾎﾟﾗﾝﾃｨｱ協会	1,000
					町田楽友協会	1,000	町田楽友協会	1,000
パートナー育成					神奈川芸術文化財団県民ホール	1,500	しらかわホール	1,500
					しらかわホール	2,000	いずみホール	2,000
その他	日本合唱指揮者協会	1,000	日本合唱指揮者協会	500	日本合唱指揮者協会	500	日本合唱指揮者協会	500
	ゆふいん音楽際実行委員会	1000	ロイヤルチェンバーオーケストラ（チャリティコンサー	1500	蒲郡市ジュニア吹奏楽団	1,000	自由演奏会inｸﾞﾗﾝｼｯﾌﾟ実行委員会	414
	蒲郡市ジュニア吹奏楽団	2000			日本モーツアルト協会	2,000	NPO法人芸術振興市民の会	1,000
	ロイヤルチェンバーオーケストラ（災害復興）	2000						
	14件	20,000	16件	19,000	20件	25,000	22件	24,914

* ▭は新規申請

1. マスタークラス

才能ある音楽家を見出し、育成していく事業で、一流の演奏技術を学ぶだけでなく、若い音楽家にとっては音楽家としての心構えや音楽に対する考え方に接する貴重な機会を提供し、今後の活動に大きな自信を与える事業。

2. 指導者の育成

講習会･研修会の指導者を育成することにより、新しい地区で分散して効率的に講習会･研修会を開催を可能にするとともに、参加者が気軽に質の高い講習を受けることを可能とする事業。

3. 子供のためのアウトリーチ

演奏会を主体とした事業だが、単に聴くだけでなく体験する音楽、音楽家とのふれあいを求めたアウトリーチ活動などを付加して、積極的にクラシックの裾野の拡大に努める事業。

4. リハビリ

障害を持つ子供やお年寄りが演奏等を行なうことによって、機能回復や障害の軽減を目指す事業

5.パートナー(事業共催者) の育成

今後、当財団主催の演奏会を東京以外の地域で積極的に開催するためのパートナーの育成を図る。今までの国内･海外での演奏会のノウハウを提供することによって協力関係を築く。助成事業ではあるが、場合によっては当財団が共催者として演奏家の招聘を行なう等の色々な協力を行なう。

6. その他

上記のとおり 2007 年度事業報告書を提出いたします。

2008 年 5 月 29 日

財団法人　日 本 音 楽 財 団

会　　長　　小　　林　　實　　㊞

理 事 長　　塩　　見　　和　　子　　㊞

2007 年度事業報告書を監査した結果、適正かつ妥当であることを確認します。

2008 年 5 月 29 日

監　　事　　垣　　見　　隆　　㊞

監　　事　　宮　　地　　真　　澄　　㊞